

救急・集中治療医学

科目責任者 和 氣 晃 司

学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

救急医療が臨床研修で必修化されたように、全ての臨床医には救急医療に関する幅広い知識や手技の習得が求められている。慢性疾患の診療との大きな相違点は、重症度の判断に緊急度が重要視されることである。迅速な生理学的異常の評価に努め、呼吸・循環の安定化を計らなければならない。併行して原疾患の検索、すなわち初期診断をして適切な治療を開始する必要がある。

救急医療体制や多種多様な救急疾患の特異的所見・初期診断・鑑別診断・初期治療などについて十分に理解を深めることが重要である。

II. 担当教員

| | | |
|-------|---------|----------------|
| 教授 | 和 氣 晃 司 | 救急・集中治療医学 |
| 准教授 | 内 田 雅 俊 | 救急・集中治療医学 |
| 講師 | 菊 池 仁 | 救急・集中治療医学 |
| 講師 | 林 健 太 郎 | 救急・集中治療医学 |
| 非常勤講師 | 鍛 良 之 | 救急・集中治療医学 |
| 准教授 | 星 山 栄 成 | 内科学（脳神経） |
| 講師 | 渡 部 功 之 | 小児科学 |
| 講師 | 別 納 弘 法 | 泌尿器科学 |
| 教授 | 松 島 久 雄 | 埼玉医療センター・救急医療科 |

III. 一般学習目標

生理学的異常所見による病態把握および初期診断に必要な各種検査、初期治療法などについて十分に理解する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 救急医療体制について説明できる。
- 2) 生理学的異常の評価について理解する。
- 3) ショックや過大な侵襲時の病態について理解する。
- 4) 外傷の初期医療、とくに“防ぎ得る外傷死”について理解する。
- 5) 中毒診療、重症感染症・特殊感染症診療について理解する。
- 6) 救急医薬品や各種医療機器について理解する。
- 7) ほかの診療科に関係する緊急性の高い疾患や病態について理解する（脳神経系救急、腎・泌尿器系救急、小児救急等）。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション

6: その他 空欄: 該当なし)

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担当者 | アクティブ ラーニング |
|----|---|----|----|----|-------------|----------------------|----------------|
| 1 | 6 | 19 | 金 | 3 | 救急・集中治療医学総論 | 救急・集中治療医学 和 氣 晃 司 | 1 |

| 回数 | 月 | 日 | 曜日 | 時限 | 講 義 テ ー マ | 担当者 | アクティブ ラーニング |
|----|---|----|----|----|---|----------------------|----------------|
| 2 | | | | 4 | 生体侵襲・多臓器不全(MOF)・全身性炎症反応症候(SIRS) | 救急・集中治療医学 内田 雅 俊 | 1 |
| 3 | | | | 5 | basic life support・advanced cardiovascular life support | 埼玉・救急医療科 松 島 久 雄 | 1 |
| 4 | 6 | 23 | 火 | 2 | 神経救急・集中治療 | 脳神経内科学 星 山 栄 成 | 1 |
| 5 | | | | 3 | 小児科救急疾患 | 小 児 科 学 小 渡 部 功 之 | 1 |
| 6 | | | | 4 | 熱傷・電撃傷 | 救急・集中治療医学 菊 池 仁 | 1 |
| 7 | | 24 | 水 | 2 | I 環境異常(熱中症・偶発性低体温・凍傷・高山病・減圧症) II その他(溺水・咬傷・刺虫傷) | 救急・集中治療医学 内田 雅 俊 | 1 |
| 8 | | | | 3 | 特殊感染症(破傷風・ガス壊疽・劇症型A群β溶連菌感染症・病原性大腸菌感染症) | 救急・集中治療医学 内田 雅 俊 | 1 |
| 9 | | | | 4 | 急性中毒I | 救急・集中治療医学 林 健 太 郎 | 1 |
| 10 | | | | 5 | 中毒II | 救急・集中治療医学 林 健 太 郎 | 1 |
| 11 | | 25 | 木 | 3 | 災害医療総論 | 救急・集中治療医学 和 氣 晃 司 | 1 |
| 12 | | | | 4 | 救急医薬品・輸液・輸血 | 救急・集中治療医学 鍛 良 之 | 1 |
| 13 | | | | 5 | 救急用医療機器 | 救急・集中治療医学 鍛 良 之 | 1 |
| 14 | | 26 | 金 | 3 | 泌尿器科救急疾患 | 泌 尿 器 科 学 別 能 弘 法 | 1 |
| 15 | | | | 4 | ショック | 救急・集中治療医学 和 氣 晃 司 | 1 |
| 16 | | | | 5 | 外傷初期診療・主な外傷 | 救急・集中治療医学 和 氣 晃 司 | 1 |

VI. 評価基準(成績評価の方法・基準)

以下のとおり成績評価する。()内は評価の割合。

定期試験(90%), 出席状況(10%)

なお, 定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

1) 教科書: 書籍名, 出版社名

2) 図 譜: 書籍名, 出版社名

参考書: 「標準救急医学」医学書院, 「改訂第6版 救急診療指針」へるす出版, 「日本集中治療医学会専門医テキスト第4版」秀潤社, 「改訂第6版 外傷初期診療ガイドラインJATEC」へるす出版

VIII. 質問への対応方法

- ・疑問点があるときは, まず, 大学図書館にある参考書などで調べること。
- ・それで解決できないときは, 教務課を通して質問すること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | |
|--|---|
| 医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる | |
| 能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる | ◎ |
| 地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる | ○ |
| 国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる | |
| リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる | |

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の正答については公開しない。質疑については教務課を通して連絡すること。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

各講義シラバス別冊参照。

XII. コアカリ記号・番号

各講義シラバス別冊参照。

二
学
年